

自己効力理論を用いた進路指導

浦上 昌則
(南山大学文学部)

この小講演の目的

学校進路指導については、以前からその重要性が指摘されている。しかし教育心理学からのアプローチ(ここでいうのは、指導的見地に立ったアプローチ)は、その指摘に充分に応えているとは言いがたいのではないだろうか。

このようなアプローチが少ない理由としては、(1)望ましい指導の方向を見つけだすににくいという、進路指導という研究課題の持つ特性に加え、(2)先行研究をはじめとする資料が少なく、それが参入障壁となっていること、(3)領域としての地位があいまいであり、アイデンティティをもちにくいことなどが考えられる。この状況を打開するためには、何にもまして研究の数が増えることが最も必要なのではないだろうか。

ここ数年、自己効力理論をベースに進路選択活動(就職活動)に関する研究を行ってきた。ここでは先の現状を踏まえながら、自分の研究成果また他の研究成果を含めて報告したい。

自己効力理論を応用した理由

生きていく力との類似性

操作可能性

先行研究の豊かさ

最も大きな理由は、自分が漠然と思いついてきた未知なるものへアプローチすることを可能にする心理的力と、Banduraの言う自己効力とが似通っていたことである。またそれ以上に、指導的観点をとることが可能な概念であることが魅力であった。しかし、自己効力理論がベストかと問われると、それに回答することは難しい。進路研究から、独自の動機づけ理論が提唱されることが望ましいが、すでに提唱されている動機づけの枠組みを活用することも有用だと考えられる。

進路選択時に重要となる自己効力の測定

Taylor & Betz (1983)の尺度

その他の尺度

因子数にかかわる問題

このような自己効力の測定は、Taylor & Betz

(1983)によるCDMSEに始まる。私が作成した尺度も、これに従ったものである。信頼性・妥当性ともに、大きな問題はない尺度と考えられる。しかしその測定対象、すなわちCrites(1965)に従う進路選択行動という概念については、再検討の余地が大きいと考えるようになってきた。進路選択行動と進学のための活動、また就職活動との異同についてなど、進路を選択する行動というものを概念レベルで検討することが必要であろう。

自己効力と進路選択行動

意識レベルでの関連

行動レベルでの関連

尺度の予測的妥当性や、概念の有効性を確認する意味でも、自己効力と実際の活動の関連を検討することは重要である。そして、これまでの研究の多くでは、有意な関連性が見いだされている。しかし特に行動レベルとの関連性を見る場合、行動をいかにとらえるかという点は大きな問題である。進路選択においては、いわゆる「寄り道」的行動も重要とされたりする。活動の質をどのようにとらえるかという点は、さらに検討されるべきであろう。

自己効力を育成する実践例

再帰法を用いた実践例

コンピュータシステムを使った実践例

ワークブックを使った実践例

このような実践研究は極めて少ない。しかしそれぞれが、それなりの効果があったことを示している。進路指導研究の有用性を示すためにも、事例研究なども含みつつ、研究成果の一層の蓄積が望まれるところである。

終りに

現在の教育心理学の課題として、最も大きなもののひとつが進路指導にかかわる課題だと思う。領域としての地位があいまいであることのメリットを生かし、様々な理論的背景を持った研究が増加していけばと考える。

参考文献

進路選択時に重要となる自己効力の測定

- Betz, N.E., Klein, K., & Taylor, K.M. 1996
Evaluation of a short form of the Career Decision-Making Self-Efficacy Scale. *Journal of Career Assessment*, 4, 47-57.
- Crites, J.O. 1965 Measurement of vocational maturity in adolescence : I. Attitude test of the Vocational Development Inventory. *Psychological Monographs*, 79. (道脇正夫 訳 1972 職業的発達インベントリーによる態度テスト 職業的発達の概念と測定 職業研究所 11-98.)
- Taylor, K.M., & Betz, N.E. 1983 Applications of self-efficacy theory to the understanding and treatment of career indecision. *Journal of Vocational Behavior*, 22, 63-81.
- 古市裕一 1995 青年の職業忌避傾向とその関連要因についての検討 進路指導研究 16, 16-22.
- 坂柳恒夫・清水和秋 1990 中学生の進路課題自信度と性役割自己概念との関連 進路指導研究 11, 18-27.
- 富安浩樹 1997 大学生における進路決定自己効力と進路決定行動との関連 発達心理学研究 8, 15-25.
- 浦上昌則 1995 学生の進路選択に対する自己効力に関する研究 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科) 42, 115-126.

自己効力と進路選択行動

- Solberg, V.S., Good, G.E., Fisher, A.R., Brown, S.D., & Nord, D. 1995 Career decision-making and career search activities: Relative effects of career search self-efficacy and human agency. *Journal of Counseling Psychology*, 42, 448-455.
- 富安浩樹 1997 大学生における進路決定自己効力と時間的展望との関連 教育心理学研究 45, 329-336.
- 浦上昌則 1995 女子短期大学生の進路選択に対する自己効力と職業不決断 - Taylor & Betz (1983)の追試的検討 - 進路指導研究 16, 40-45.

浦上昌則 1997 自己効力理論を用いた進路指導に関する基礎的研究 - 女子短大生を対象に - 博士論文 (名古屋大学).

自己効力を育成する実践例

- Fukuyama, M.A., Probert, B.S., Neimeyer, G.J., Nevill, D.D., & Metzler, A.E. 1988 Effects of DISCOVER on career self-efficacy and decision making of undergraduates. *The Career Development Quarterly*, 37, 56-62.
- Luzzo, D.A., Funk, D.P., & Strang, J. 1996 Attributional retraining increases career decision-making self-efficacy. *Career Development Quarterly*, 44, 378-386.
- Luzzo, D.A. & Day, M.A. 1996 Effects of Strong Interest Inventory feedback on career decision-making self-efficacy and social cognitive career beliefs. *Journal of Career Assessment*, 7, 1-17.
- 浦上昌則 1996 「進路選択に対する自己効力」の育成に関する予備的研究 - ワークブックを用いた育成方法について - 進路指導研究 17, 17-27.

その他

- 廣瀬英子 1998 進路に関する自己効力研究の発展と課題 教育心理学研究 46, 343-355.

浦上昌則 : urakami@ic.nanzan-u.ac.jp